

1. 評価結果概要表

平成 21年 2月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	2071300111		
法人名	特定非営利活動法人 赤いにんじん		
事業所名	グループホーム赤いにんじん		
所在地	長野県飯山市大字下木島258番地 (電話) 0269-81-3037		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成21年2月19日	評価確定日	平成21年3月12日

【情報提供票より】(21年 1月 28日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤7人	非常勤0人 常勤換算7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	一部二階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	有 (100000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要 (1月 28日 現在)

利用者人数	6 名	男性	名	女性	6 名	
要介護1	1名	要介護2				
要介護3	3名	要介護4	1名			
要介護5	1名	要支援2				
年齢	平均	84 歳	最低	78 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	飯山赤十字病院、木島平クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設より7年目を迎えた。発足当初より、地域の中で一緒に生活すること、看取りまで行うのが、グループホームの役割と考え実行されてきた。居間の南に面した風景は、田畑が広がる冬の今は、雪で白く覆われている。目の前の山肌にスキー場がある。白い風景の中堤防を走る車が、手品を見ているように一枚の白い紙切れの上を移動していた。大きな炬燵の好きな場所で暖を取り、お茶を呑みながら自分の好きなことをしている。こんな風景を眺めていると一日退屈しない。春夏秋冬外の景色が変わるように入居者の生活も併せて変わるのさうと感じた。入居者の方々の平和で落ちついた生活と、家族との関係が繋がれている生活は、やはり管理者、職員の努力によるものと思った。月に1回行われる家族との食事で幸福に満たされ、口には出さないがきっと家族や職員に「ありがとう」の気持ちだと思う。私も将来、こんなグループホームのお世話になりたいと思った。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	要改善点はない 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	5回目の自己評価であるが惰性に流されることなく、新しい視点で参加している。これからも入居者のために出来る事を考えるなど全職員が、積極的に関わりを持った。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	開設以来続いている、毎月行われている家族会に家族以外の運営推進委員の方も参加され、意見等聞かせていただいている。委員の方々に負担にならず、意見も聞けるような配慮がされている。その他に運営推進委員の方々だけの委員会が開催されている。今後も、議事録を残すことと、更なるアップのために委員会に議題を提案していただきたい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	開設以来毎月、家族の食事が行われている。職員の労力により開催され、家族と職員の間に関係が作られていて、何でも話し合える関係作りがされている。家族の勤務体制に応じた通信手段等を交え家族との連絡を密に取っている。気楽に家族が宿泊する事もでき、入居者と家族の関わりを途切れさせることなく、訪れた家族には、「赤いにんじん」の家族の一員として対応している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	一軒の家として地域の方々と交流ができています。地域の年間の行事の参加はもちろん、ホームでの行事にも地域の方々への参加がある。小学校・中学校・高校の生徒のボランティアも盛んである。受けるだけでなく、ホームとしても地域住民に「介護教室」など開催している。職員が作った紙芝居を、希望により上演したり貸し出している。「おはぎの日」に一人暮らしのお年寄りに声掛けをし、交流を図っている。お互いを必要とする関係作りがされている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人としての尊厳や権利を損なわずその人らしいあり方をめざす。その人の本来の力やあり方を大切に。地域の一員として暮らすことをめざす」を掲げている。居間にも理念が掲げられていて、赤いにんじんに来た方々にも理解していただいている。「地域交流費」を年間の予算に組み込まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム発足当時より7年。職員は、理念のもとに入居者の生活を支えてきた。赤いにんじんの生活は、理念に基づいた生活が送られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々には、「赤いにんじん」と言う1軒の家として受け入れられている。地域のお祭り、堤防の掃除参加など日常的な付き合いがされている。毎月1日を「おはぎの日」を作り一人暮らしの老人に声をかけ招待している。毎年行われる「夏祭り」に地域の方々が大勢参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回で5回目となるが職員全員で参加をしている。評価に取り組むたびに新しい発見を見出している。今後の生活についても、提案事項なども考えられた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>多方面の方々の運営推進委員に参加者がいるため、全員の参加をお願いすることは大変なので、運営推進委員全員の参加する委員会は、6ヶ月に1回行い、家族会が毎月行われているので、委員の方の負担を考え交代で参加していただくような工夫をしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市より委託を受け、介護教室の講習会などを行っている。夏祭りや家族会などにも市へ声掛けをして参加、お手伝いをお願いする関係作りができています。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回開催される家族会に、遠方の方から近くの方まで全家族の出席されている。職員との会話を通じて、家族の思いを伝えていただいている。預かり金の受け入れも家族に確認していただいている。管理者の直筆による手紙が毎月家族のもとへ送られている。入居者の家族への気配りがされた手紙等は、家族も心待ちにしているようだ。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族よりの要望などがあった場合は、管理者に伝え、随時会議を開き、話し合い管理者より家族のもとへ回答している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>7年間で退職者は家庭の事情等で2名。退職した職員もボランティアに参加などし、現在も関係が保たれている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修、施設研修、視察見学など積極的に職員は参加している。管理者、職員の共同作業で介護に関する「紙芝居」の作成をするなど、生活の中での学習も行われている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>数多くのグループホームと交流が図られている。職員の交換研修も行われている。管理者、職員の交流があり、お互いの悩みやケアの方法など情報を交換している。グループホーム連絡会に入会している。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>待機して頂く段階で、第一にホームを見学していただき申し込みを開始している。管理者が何度も自宅へ訪問したり入居希望者の方に再度見学をしていただいている。医師の意見も聞くようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>生活の中でさまざまなことからお年寄りならではの良さを感じ取ることもある。物静かな方が「まるで宝くじに当たったようだ」と今の生活を職員に表現してくれたり、家族会での席で突然喜びの挨拶をお客さんの前で披露してくれたり、職員は思いがけない感謝の言葉を頂き感激した。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>開設当初よりの入居者が現在寝たきりになり、会話も困難な状況である。長い年月に培われた職員と入居者の関係で、入居者の表情や職員による話しかけなど意向の把握ができています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時に本人の希望・家族の希望を聞き、プランが作られている。家族にも分かりやすいケアプラン表が作られている。職員はプランを把握し毎日の生活を支えている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しを行っているが、変化があるときは、随時対応し作成し直している。毎月のサービス会議で全入居者のプランを検討している。ケース記録を毎月記入し、記録として残している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>病院(協力医・歯科医・眼科医など)への付き添いを行っている。寝たきりの方は、ホームへ美容院が向ういただき整容しているが、外部の美容院を利用する際は付き添いを行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族よりの依頼でホームの協力医に全員が変更している。1ヶ月に2回の往診をお願いしている。今までの看取りに関しても、協力医の医師との信頼関係が持たれ適切な指示と協力があつた。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホーム開設当初から看取りの方針で行って来た。過去に六名の方を看取りをした。ホームの方針は、入居時に説明し話し合いを行う。家族が遠方の方もいるので付き添いの強制はしていない。医師との連携を図り、医師よりの指示に基づき毎日のミーティングで職員が指示を確認している。管理者による研修が行われている。看取りを全職員に経験させるように配置している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報等については、職員に徹底を図っている。日常生活において、会話なども入居者の行動をささざるような行動は見られない。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎日の生活で一人ひとりに寄り添った生活をすることを目指している。「ふるさと巡り」と称して入居者の家や慣れ親しんだ場所をドライブしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の食材をふんだんに使った料理を頂いている。毎日の惣菜やおやつは、職員の手作りのものが出されている。野菜など下ごしらえを手伝っていただきながら調理している。寝たきりの方には、口から食べられるように職員の工夫がされていた。住人、職員共に長野の方言の「ずく」の持ち主であり働き者であった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員2人の介助で入浴をしている。寝たきりの方は、職員が抱きかかえての入浴や、家族了解のもとでの清拭をしている。また、入居者の希望を聞きながら対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	飯山の冬は寒く、どこの家のお年よりも炬燵でお茶を飲む生活で、「赤いにんじん」のお年よりも炬燵で思い思いの手仕事にいそんでいた。雑巾を縫う方、ゴミの袋を作る方、みんなの作業を見守る方。田畑に積もった雪を眺めながら温かいお茶を飲み、穏やかな生活をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	飯山の冬は、雪が多く日中の散歩などは、危険が伴うので控えている。暖かな日に散歩を希望する方に付き添いをしている。食料品の買出しに入居者の方と職員が行く。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。居室に鍵はない。徘徊の時の顔写真入のプレートが作成されている。近所の方も入居者の方が外に出ていると声をかけてくれる。地域の方々に見守られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署による消火訓練が近所の住民参加で行われている。消防署への直通器機がある。水害・地震等の大きな災害時には、入居者の方々の避難受け入れ先の施設と、協力体制ができています。避難訓練には、職員全員が参加している。隣組・地元消防団の協力体制ができており、災害時の蛍光インクでネームプレートが作られ各々の部屋に置いてある。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>職員による献立が作られている。栄養管理士に献立を見てもらったり、ホームに来て見ていただいている。毎食時のお茶、午前と午後のお茶、入浴後のお茶など努めて水分を取っていただいている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間には、手作りによるのれん、カバーなどが多く施されていた。中二階の炬燵は入居者の午後の憩いの場となるそう。それぞれが自分にあった場所で、過ごしている姿が見られた。昼食後は、換気のため南側のガラス戸を全開にし、新鮮な空気を入れて刺激を与える環境が整えられていた。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族会の写真が入居者の部屋に飾られている。生活の中のスナップ写真は、とても素敵な表情で飾られている。多くは持込まれていないが、持ち込まれた中で入居者と職員の工夫でその人らしい部屋となっていた。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。